



立命館大学大阪いばらきキャンパス講座

第8回ガーデニング講座

—冬を越えて、春を迎える草花集合！—

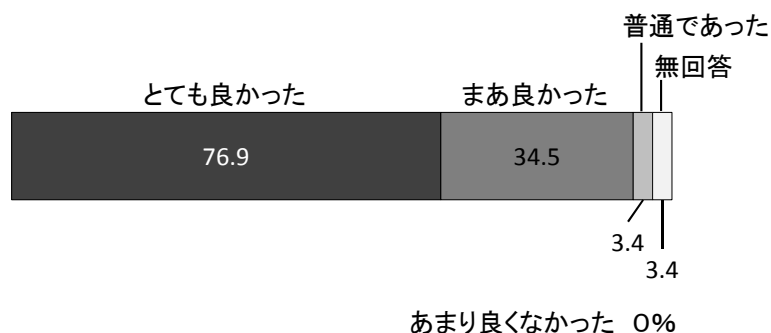
- 日 時 2015 年 11 月 14 日 (土) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分
- 場 所 立命館大学大阪いばらきキャンパスC棟3階ラーニングシアター(C373)
- プログラム
1. ガーデニングにもっと季節を取り入れる
 2. 「バルコニーガーデン」を素敵にするコツを身につけよう
 - ・バルコニーの環境、形状の特徴を知り、有利に生かす工夫
 - ・バルコニーガーデンを魅せるデザイン
 3. みんなで「寄せ植え」をつくろう！
 - ・コンテナガーデンの基礎と長持ちさせるコツ
 - ・気軽につくる寄せ植え、管理のポイント
- 講 師 高田昇(都市プランナー・ガーデンデザイナー・立命館大学客員教授)

第7回ガーデニング講座 アンケート結果のご紹介 (2015 年 7 月 4 日 実施)

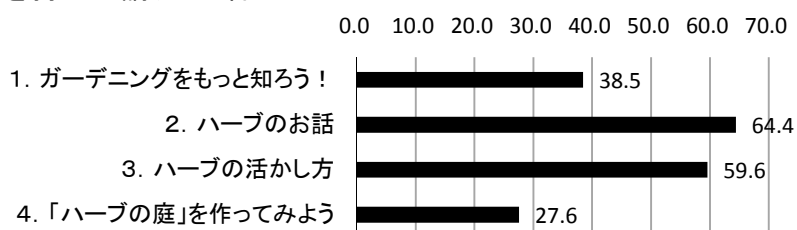
講座テーマは『ハーブをもっと楽しむ、もっと生かす一健やかで豊かな暮らし』で開催し、「ガーデニングをもっと知ろう」「ハーブを楽しみ、生かすガーデニング」などの内容で、112 名の方が参加されました。

(1) 講座の感想について

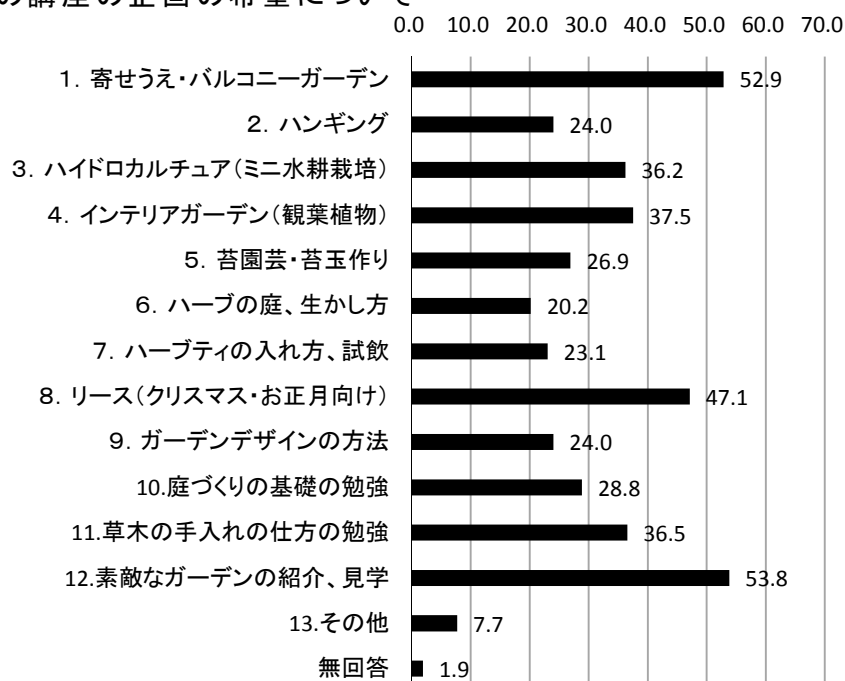
(数字は%)



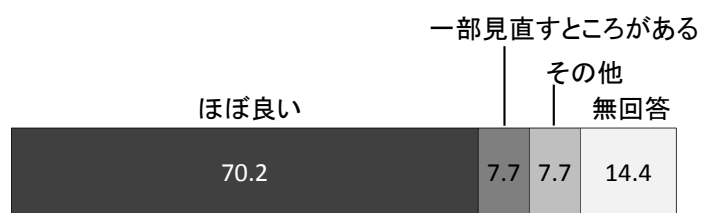
(2) 特に興味を持った講座内容について



(3) 今後の講座の企画の希望について



(4) キャンパスガーデンについて



全体として見直すほうが良い 0%

■ 講座当日の様子



1. ガーデニングにもっと季節を取り入れる

日本は、世界でも稀な気候、季節に恵まれた土地柄にあります。

特に関西は、年間を通じて適度な温度の変化、雨量があり、ガーデニング適地・世界一といっても良いロケーションです。

季節のことをもっと知り、生かして、季節の移り変わりをもっと繊細に表現し、楽しむ「八季」のガーデニングがおすすめです。

1. 「和食」はなぜ「世界遺産」？

—「自然の尊重」という日本人の精神を体現する社会的習慣

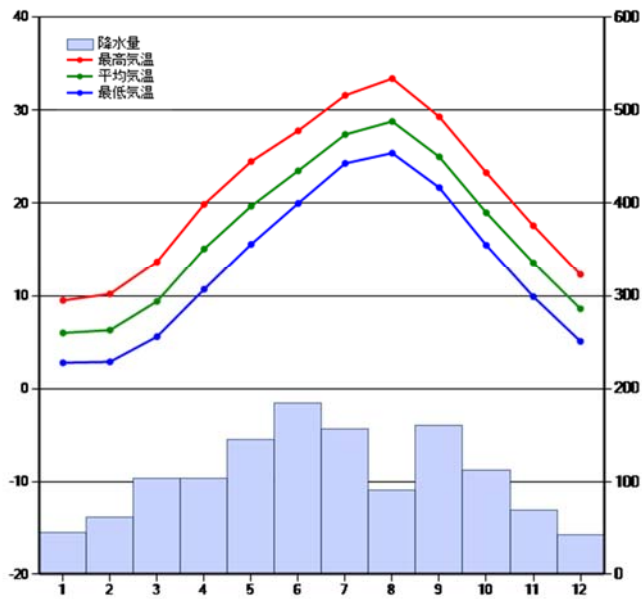
和食が世界の文化遺産に登録される見通しとなりました。それはすしや天ぷらでもなく、上等の懐石料理でもない、普通の生活文化として培われてきた一汁三菜、惣菜が食文化として認められてのこと。実はこのことは私たちがめざしているガーデニングと通じるところがあります。



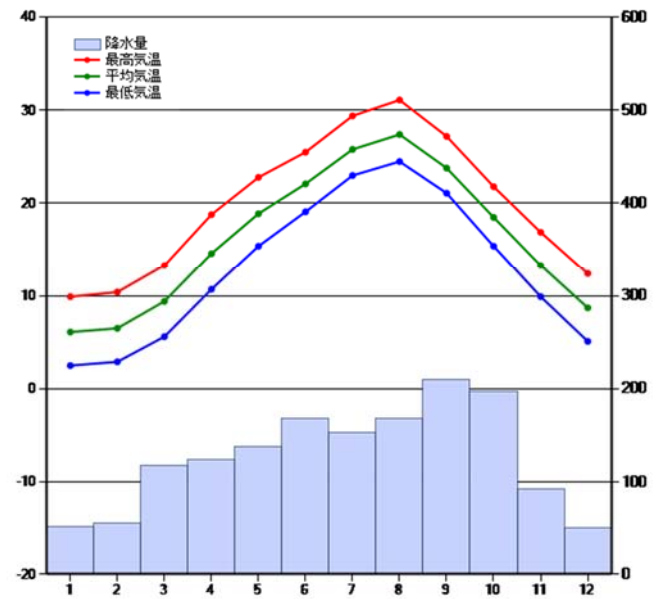
「和食」の文化遺産としての価値	同じ価値基準からの「Jガーデン」の特徴と可能性
1. 新鮮で多様な食材と、その持ち味の尊重	落葉・常緑樹、針葉・広葉樹、高・中・低木、宿根草・一年草、地被類、湿性・水性植物、苔類、シダ類と多様な植物があり、それらの持味を生かした多彩なガーデンができる。
2. 栄養バランスに優れた健康的な食生活	一年を通して、無理なくガーデニング行動ができて、心身の健康につながると共に、五感に訴える植栽により、ガーデン空間そのものが癒しや情操を育む場となる。
3. 自然な美しさや季節の移ろいの表現	日本の身近な自然にみられる美しい風景一里山、雑木林、野原、田園、小川、池などをモデルにしつつ、人の手を加え、デザインすることでより美しい自然を表現できる。
4. 正月行事などの年中行事との密接な関わり	「生花」はもとよりお茶席に生かせる「茶花」や、「春の七草」「秋の七草」「花見」「月見」そして「俳句」や「短歌」、「和装」「和菓子」などと深くつながっている庭の草木。

■日本各地の気候

〔大阪・神戸〕



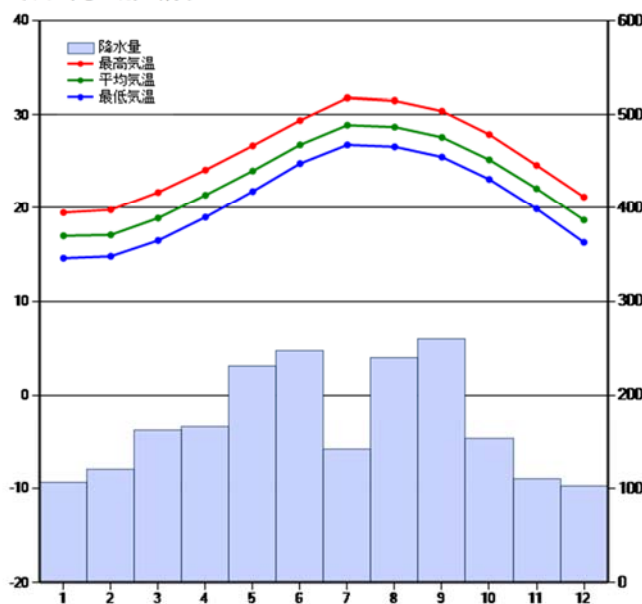
〔東京〕



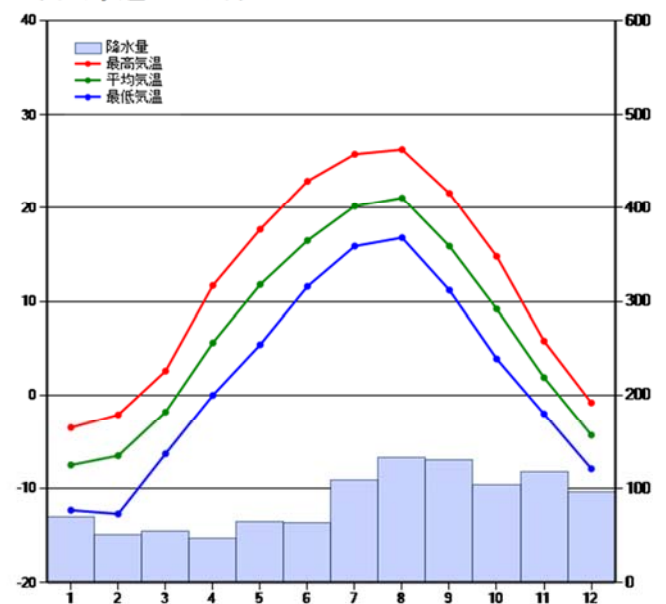
日本列島近海の海流

1. 黒潮
2. 黒潮続流
3. 黒潮反流
4. 対馬暖流
5. 津軽暖流
6. 宗谷暖流
7. 親潮
8. リマン(Liman)寒流

〔沖縄・那覇〕



〔北海道・旭川〕



2.「八季のガーデン」をどう取り入れるか？

「八季のガーデン」と言っても、年に8回草花などを入れ替えるのではやってられないし、そもそものねらいが日本の繊細な自然と季節を表現することにあるという原点に戻ると、人工的すぎる。そこでどんな工夫が効果的か？みなさんそれぞれチャレンジしてみてください。私の場合はこんな「手抜きをしてみたりしています。

- (1)花期の長い植物を多く、そして季節感の強い植物を少な目に組み合わせる

＊ルドベキア・バーベナ・ランタナ＋シュウメイギク

〔写真〕左：ルドベキア 右：シュウメイギク

- (2)宿根草・常緑樹を主体としながら一年草を加える

＊バコバ・クリスマスローズ・タイム＋ビオラ・ヒデンス

〔写真〕左：クリスマスローズ 右：ビオラ

- (3)毎月の茶花を一つ取り入れてみる

＊1～3月 スイセン・アオモジ・オーバイ

＊4～6月 ユキヤナギ・クレマチス・ヤマアジサイ

＊7～9月 トラノオ・マツムシソウ・ワレモコウ

＊10～12月 ホトトギス・シロワビスケ・ロウバイ

〔写真〕左：ワレモコウ 右：ホトトギス

- (4)長生きする植物を多めに、そして少なめの短命の植物を組み合わせる

＊ランタナ・チェリーセージ・ルリマツリ・ローズマリー・

エリゲロン＋ニオイスイレ・ミヤコワスレ

〔写真〕左：ランタナ 右：ミヤコワスレ

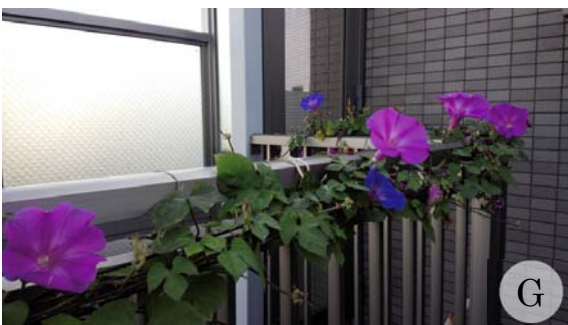
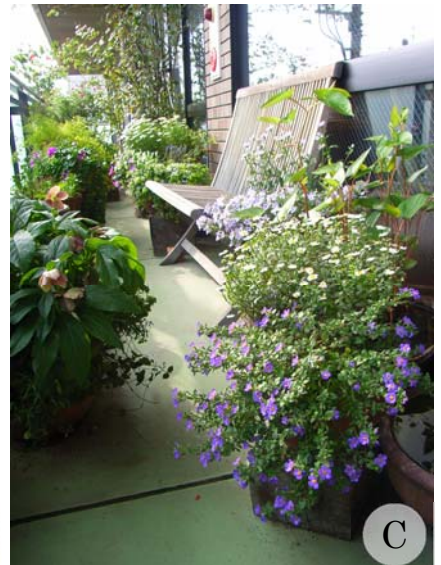


■八季のガーデニングノート

八季	季節の特徴	ガーデンの風景	ガーデナーの目のつけどころ	ガーデニングのポイント	花をつける植物例
初冬 12～1月	風の冷たさが日々増し、一年で日が一番短い時。雨は夏の1/3で乾燥期(平均気温 3～5℃)	秋の名残りの実、冬眠に入る宿根草、冬に向けて咲く花・・・植物の性質の違いがよく表れる。	季節はきびしいが、樹々は一年のスタートを迎える。	春に向けての冬支度。 必要最小限の整枝、剪定や誘引。	エリカ、カンツバキ、サザンカ、ユリオプスデージー、スイセン、ストック、ヒデンス、マホニアコンフーサ、ナルコユリ
真冬 1～2月	日照が日ごと長くなる長日植物が活躍をはじめ。一年で最も寒い時。(平均気温 3℃前後)	多くの植物は生長を止める。 常緑樹も枝は伸びない。	土の中では冷温と微生物の働きで旺盛な土の再生が行なわれている。	寒肥は土を掘って埋めるなど土づくりで春に備える。	クリスマスローズ、ジンチョウゲ、ツバキ、ヤブツバキ、ビオラ、オキザリス、コバ、シクラメン
早春 2月末～3月	気温は低くても、日照時間は春そのものの。春雨も多くなり空気が潤う。(平均気温 3～6℃)	固い新芽が和らぎ、蕾もふくらみはじめる。	冬に培われた土に、春光が差し込んで、根はぐいぐいと張る。	春らしい庭へのチェンジ。 植え付け適期の植物多い。 (ラベンダー、サルビア、ミヤコワスレなど)	ローバイ、オーバイ、トキワマンサク、ミモザ、ハナモモ、オキザリス、ムスカリ、ウメ、ボケ、ツルニチニチソウ
仲春 4～5月	日差しが強まり、夜が短く、長日植物に最適な季節。(平均気温 15～16℃)	多くの植物が、最も旺盛に生長、芽吹き、開花が盛ん。	様々な植物の生き方を、心を込めて観察できる時期。	植物の盛んな生長に合わせ、大量の水分が必要な時。	ヤマザクラ、コデマリ、ヤマブキ、ユキヤナギ、ラズベリー、シラン、アジュガ、アイム、ロベリア、アスチルベ
初夏 5月末～6月	爽やかな五月晴れは短く、梅雨に入る気温が上り、湿度も上る。(平均気温 18～20℃)	多くの広葉樹が青葉に競いて白っぽい花をつけ「繁殖」への序章。	「青年」から「成年」に向う植物の変化が頼もしい。	雨期に強い植物と、弱い植物の見きわめが大切。	ヤマボウシ、ナナカマド、ソヨゴ、クちなシ、アジサイ、シモツケ、ジャスマイン、ガバナサス、ローズ、ウツギ、オレガノ
真夏 7～8月	一年で最も日が長く、光エネルギー、気温が充満する。8月に入ると雨が激減。(平均気温 25℃前後)	太陽の季節ながら、日没は次第に早く、短日植物が主流になりはじめる。	水をたつぷり含んだ土に、強い太陽、高い気温で植物が夢中で伸びる時。	強い剪定は、春に花を咲かせた花木に花芽が分化する前に。	サルスベリ、ノーゼンカズラ、ルドベキア、ミソハギ、カラミンサ、アサガオ、ランタナ、エキナセア、ツルバキア、ギボウシ
初秋 8月末～9月	気温はまだ高いが、日は短く、光の角度も浅くなる。9月は梅雨並みの降水量。(平均気温 22～25℃)	夏の暑さで咲く力を落としていた植物が再生。	夜の冷え込み、日差しの加減で上の中では、再び根がしっかりと張りはじめ	猛暑で弱った株の回復を応援。 徒長した茎のカット、緩効性肥料など。	シマトネリコ、ブーゲンビリア、アベリア類、ジュメイギク、オミナエシ、ラベンダー、セージ類、ムラサキツユクサ
仲秋 10～11月	日は急いで短くなるが、空は青く、穏やかな季節。程よく秋雨が降る。(平均気温 14～20℃)	夏の熱中、強い刺激を乗り越え、生育が緩慢となる。実りの季節でもある。	一年でもっとも落ち着いて自然と向き合える時、風雅な気分。	花期の長い一年草、耐寒性宿根草の植え替え、株分け、収穫など絶好期。	ジニア、ナデシコ、アスター、コスモス、キンモクセイ、パンパスグラス、デージー類、ローズマリー、ツワブキ

2. バルコニーガーデンを 素敵にするコツを身につけよう

■ バルコニーガーデンの例



2-1. バルコニーの空間・環境を考える

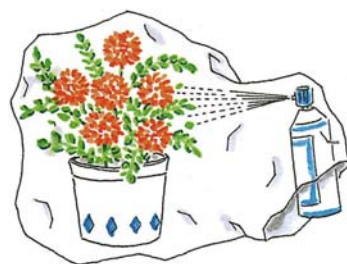
1. バルコニーの機能を第一に考えて

防災上のチェックとして、避難通路の確保が大切です。また、バルコニーは生活のために必要な場所です。通路や洗濯物を干すなどの基本スペースは確保します。また、エアコンの室外機が設置される場合がありますが、使用時にここから吹き出す風は植物には好ましくありません。少し離して設置しましょう。



2. 近隣への配慮を忘れずに

薬剤や肥料の取り扱いには十分な気配りを。コンテナをすっぽり覆うビニール袋の中で散布すれば、薬剤が飛び散らず、薬の効果も上がります。においの強い肥料の取り扱いにも注意しましょう。また、水やりや土ぼこりの多い掃除の場合は軽く散水するなど、近隣への配慮を忘れずに。



3. 風当たりを考慮して

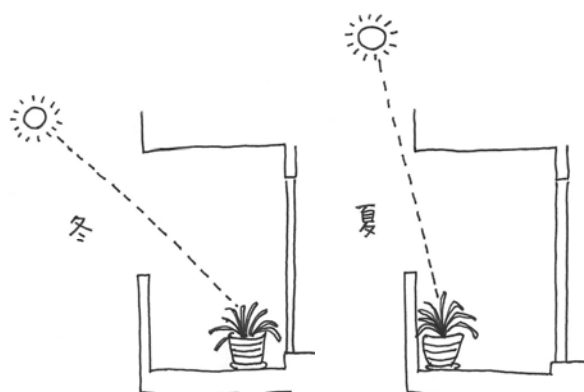
風当たりが強い場合は、コンテナが乾きやすく、強風でせっかくの花が台無しということも。フェンスにトレリスを取り付ける方法もあります。ハンギングバスケットなどしっかりと固定させます。強風の時は、床に置いたり家の中に非難させてあげましょう。

4. 乾燥しやすい環境

乾燥しやすいバルコニーでは、庭でコンテナ栽培する時以上にしっかりと水やりを。コンテナの土の乾き具合をこまめにチェックします。コンテナ内で水が蒸れないように午前中の水やりを早朝にしたり、土が乾いていれば夕方にもう一度水を与えるなど。気温の上昇が激しいときは床に打ち水をするのも効果的です。

5. 日当たりの変化

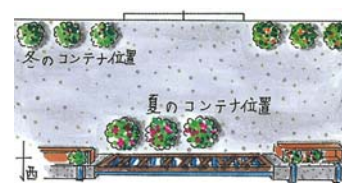
ベランダの日当りは、季節や向きによって大きく変わります。日の差す場所へコンテナの位置を変えてあげましょう。また、バルコニーの床はコンクリートのため、夏は熱を吸収し気温が上昇します。また冬は光が当たらない場合冷え込みます。床にウッドデッキを敷いたり、コンテナの下にレンガを置いたりする工夫を。



南面



西面



2-2. バルコニーガーデン成功のコツ

1. 植え替えは？

植え替えはひと回り大きな鉢に植えるのが理想ですが、ベランダの場合は、根の手入れをして、新しい土を加えてから元の大きさの鉢に戻す方法があります。



2. ベランダの排水口を詰まらせないように

花がらや枯れ葉などは、排水口のネットを二重にすれば、ほとんどカバーできます。また、水やりをするときにコンテナから流れ出る土は、受け皿などを使い、たまった水を別のコンテナに戻せば土の流出は防げます。

3. 菜園を簡単につくる方法

大根、長ねぎ、じゃがいもなどの根菜類は土の中で育つため、ある程度の量の土が必要です。

大きく深いコンテナが置きにくいバルコニーでは、ポリ袋を利用するのがおすすめ。袋の底の両隅に水ぬき穴を作り、土を入れて動かないように固定すればできあがり。10kg入りの米袋などが最適です。



4. 旅行中・留守中の水やりは？

比較的短期間、留守にする場合は手軽な給水グッズで済ませることもできますが、5日以上家をあけるときのなどは、自動給水装置がおすすめです。ベランダ用としては、電源のいらない電池タイプがあり、給水ロープを各コンテナに差し込んで、タイマーを入れておけば完璧です。

土のリフレッシュ.....

oooooooooooooooo

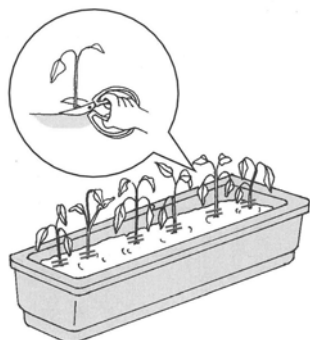
ひとロメモ



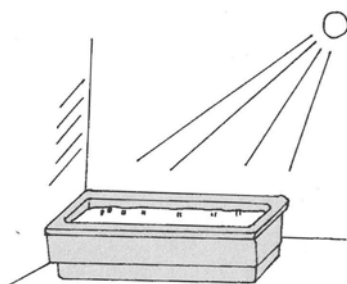
古い土を再生してみましょう

古くなった土は、排水や通気性が悪くなり、病菌や害虫の卵があったりします。そのまま使うのは植物にとって好ましくありませんが、上手に再生すると、上質な土によみがえらせることができます。鉢やプランターの古い土は、捨てないでリフレッシュさせてあげましょう。

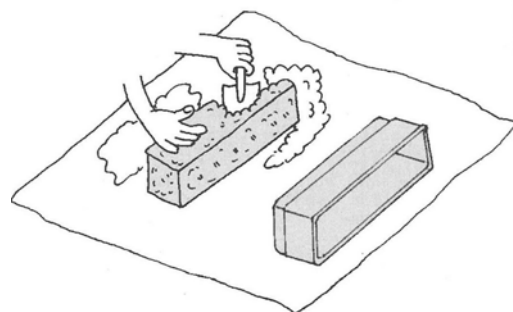
- 1 枯れた草花の茎は、株元から切る



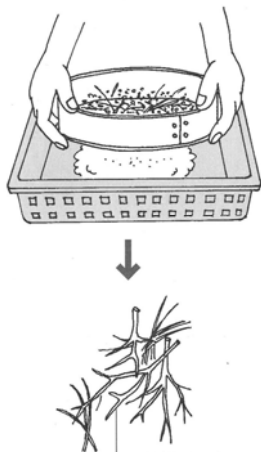
- 2 雨の当たらない日なたに置いて、乾燥させる



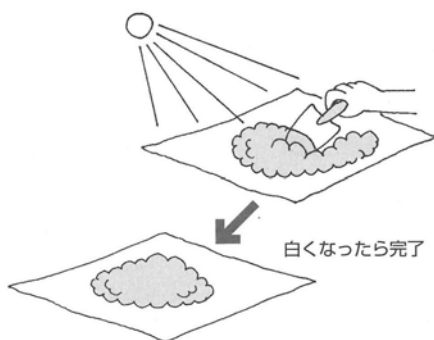
- 3 シートの上に土を出して、シャベルで崩す



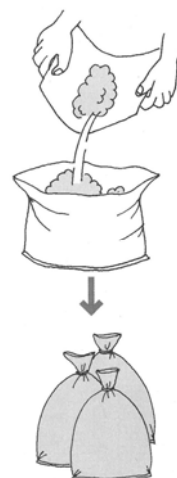
- 4 土をふるい(5mm)にかけて、根やゴミを取り除く



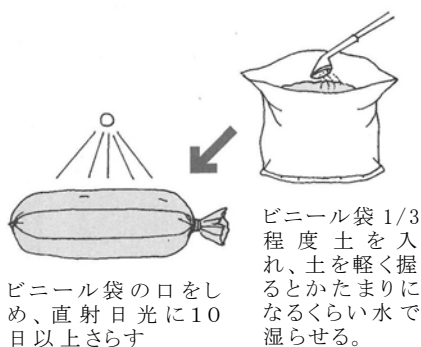
- 5 ふるった土はシートに広げて日光に当てて数日間よく乾かす



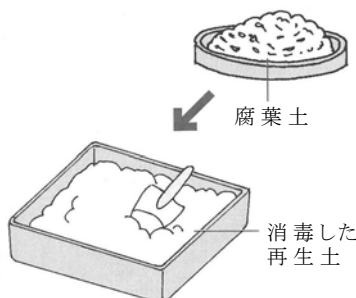
- 6 ビニール袋に入れて保管する



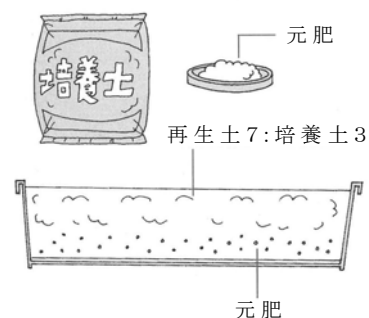
- 7 再び使用するには必ず消毒する。真夏の太陽熱で消毒するのが簡単



- 8 再生用土に3割ほど腐葉土を混ぜる



- 9 腐葉土を混ぜた再生土7と培養土3を混ぜて使う



2-3. バルコニーガーデンのアレンジ

1. トレリスでベランダの雰囲気センスアップ

- ・ベランダの無機質な雰囲気を温かいイメージに変え、おしゃれに演出
- ・立体的な花や緑のディスプレイ
- ・日差しを和らげるシェード代わりに
- ・風の強い場所なら、部分的な風よけとして
- ・エアコン室外機のカバーの役割



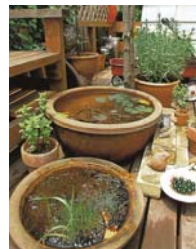
2. 床の MATERIAL でイメージが変わります

- ・ウッドデッキ
- ・ウッドパネル
- ・タイル・レンガ
- ・タイルパネル
- ・プラスチックパネルなど



3. ツールを効果的に使って

- ・ベンチ
- ・テーブル
- ・水鉢
- ・木製・アンティークグッズ・ろうそく



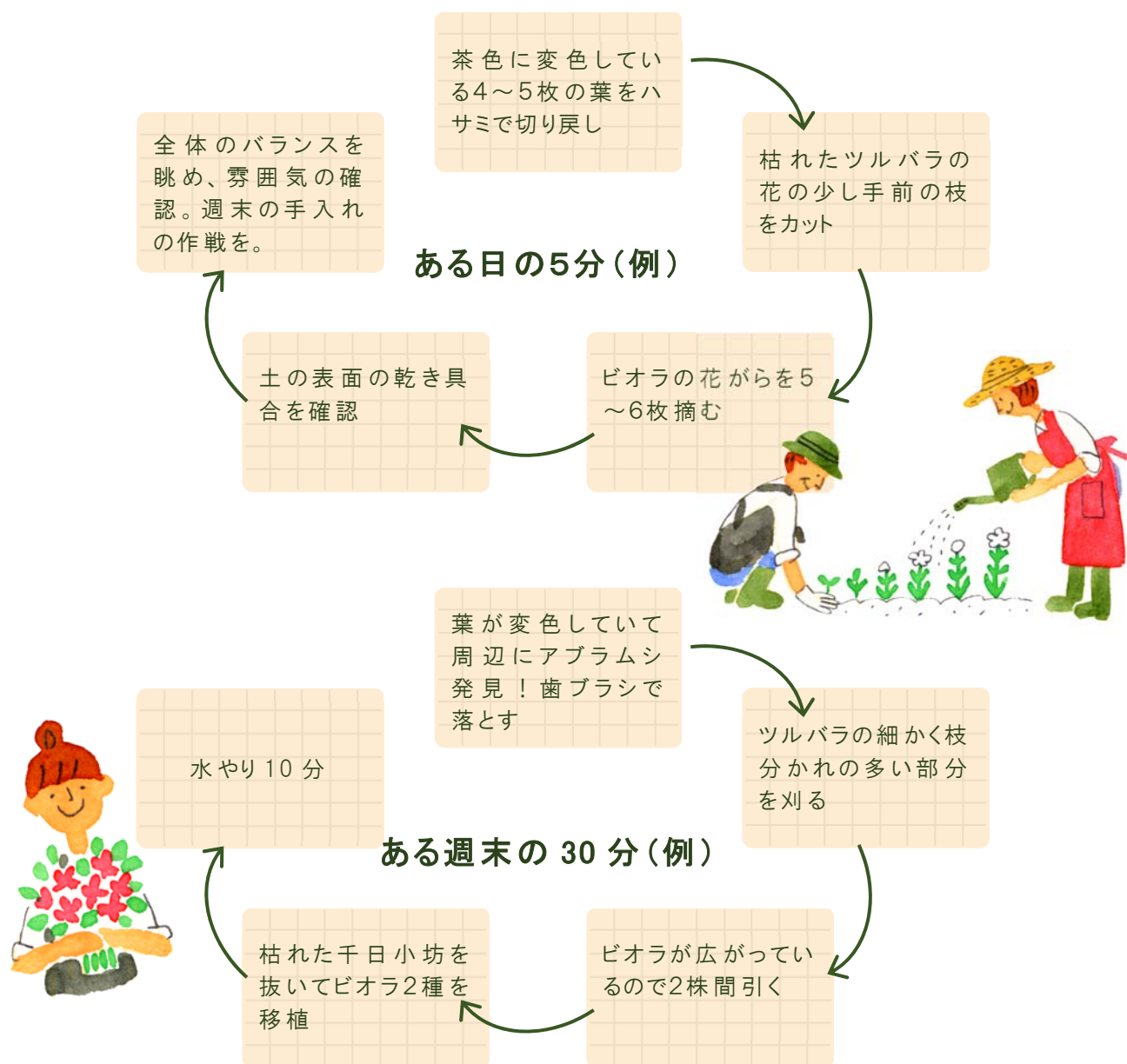
ガーデニングのコツ.....

oooooooooooooooo

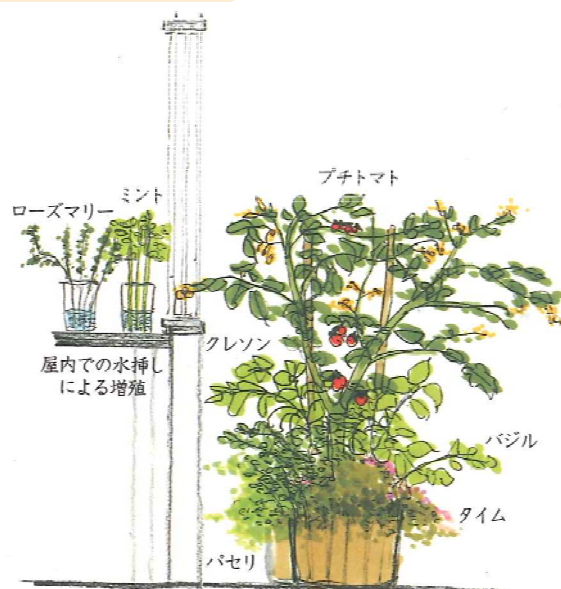
ひとロメモ



—いつでも誰でもできることから—



■バルコニー、窓辺を生かす「自給自足」への一歩



2-4. 寄せ植えコーディネートの基本ルール

1. 植物の決め方

(1) 植え込み植物の特性を知る

- ① 性質の似た植物を選ぶ
- ② どこに置くのか決める
- ③ 開花時期の長い植物を選ぶ

(2) 植物の成長する姿をイメージする

- ① まっすぐ伸びて背丈があるもの
- ② こんもりと横に広がってボリュームが出るもの
- ③ 垂れ下がるもの



2. センスアップさせるテクニック(例)

(1) カラーコーディネートを考える

- ① 1色でまとめる
- ② 2～3色の同系色の組み合わせ
- ③ 補色関係の2色を組み合わせる



(2) グリーンを上手に組み合わせる

- ① 主役の花を引き立てる葉のもの(グリーン)をあしらう
- ② ナチュラルな雰囲気を演出するのにグリーンをバランスよく組み合わせる

(3) 一年中楽しめる花木を主役にする

(4) コンテナとのバランスを考えて植え込む



3. 植え付け

(1) 最低限必要な道具



まずこれだけあれば大丈夫。移植ゴテ、バット(土と肥料を混ぜる、土の一時保管などに)、ジョウロと霧吹き、ハサミ(花がら摘みや剪定に)、グローブ(トゲのある木の手入れのほか、土で手を荒らさないためにも)



水はけをよくするために鉢の底に敷く鉢底石(ゴロ石)と、ブレンド済みの市販の草花用培養土。慣れてくれば基本用土で土づくりを。



根が十分に張れる大きさの鉢を用意。一般的には水はけがよく根腐れの心配が少ない素焼きの鉢がいい。底穴は鉢底ネットでおさぎます。

(2) ポット苗の選び方

ともに右がよい苗、左が悪い苗。茎の根元が太く安定感があるか、茎に勢いがあるか、花の色が濃いかをチェックします。



(3) 根が回っていたら



ポットから抜くと根が回っていたマリーゴールド



根鉢の底にハサミで十字に切り込みを入れます。



無理に引っ張らずに、手でほぐし開いていきます。

(4) ポット苗の植え込み方



鉢底ネットでおさぎ、鉢底石(ゴロ石)を1/5~1/6程度敷きます。この上から元肥を加えた土を、苗が十分入る高さを残して敷きます。



苗はポットから静かに引き抜き、根が広がりやすいよう軽くほぐします。根が弱い花の場合、土は崩さない。根を傷つけないように注意を。



鉢の真ん中に苗を置きます。鉢は苗よりひと回りほど大きいものを。大きすぎると根が伸びず過湿になるので徐々に大きな鉢に。



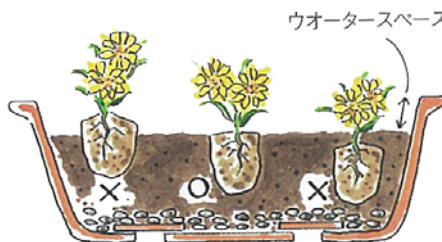
苗と鉢のすき間に土を入れます。鉢の高さギリギリまで入れずに、水のたまるスペースを残すこと。土を手で押さえて落ち着かせます。



後に鉢底から水が流れるまで、たっぷり水やりを。根付くのを待って、一週間ほど半日陰に置き、水ざれにならぬよう注意を。



根付いたら日当たりのよい場所へ移動して。1~2週間に一度は液肥を。液肥は薄いものを回数多く与える方が効果的。水やりは乾いたらたっぷり。



水が流れ出ないようウオータースペースをとり植える深さは根鉢の高さに合わせます。株元が土の中に沈んだり、土からはみ出している居心地が悪いので植え込むときに気をつけましょう

より美しく、元気にするために～ふだんの手入れ～

ガーデンがよりよい姿に育っていくためには、適切なメンテナンスが基本です。

手入れのうち、シーズンのポイントですべき樹木の剪定、病虫害防除、施肥といったことは専門的なことも含まれるので、またゆっくり相談します。

でも、ふだんからマメに手を加えることで、見違えるほどすてきなガーデンになっていきます。楽しみながら、花木を見つめ、語り合いながら、誰でもできる、そして効き目のある手入れのコツとは？

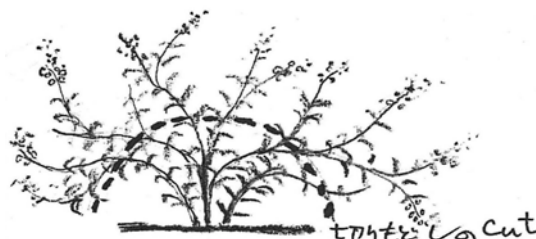
●花がら摘み

咲き終わった花を摘みとります。見た目がきれいなだけでなく、株の老化や害虫を防ぎ、二番花を咲かせ、花期を長く楽しむことができます。



●切りもどし

花が一通り咲き終わった後や、生長しすぎて乱れてきた時、植物により夏・冬など過ごしにくい季節を迎える前、短くカットします。花つきを回復させ、勢いのよい新しい芽が伸びてきます。



●雑草抜き

雑草はせっかく育てようとしている草木の栄養を横取りし、根を張るジャマをするので、「生えたら抜く」ことです。それも根こそぎ抜かないと意味がありません。ただし、なかには野草として残してもいいもの、「本物」と区別がつかないものもあります。少なくともイネ科の雑草は強すぎるので抜きましょう。



●水やり

根がしっかり張るまでの地植え、そしてコンテナガーデンには水やりが必要となります。ただし、水のやりすぎ、少なすぎのいずれも困ります。土の表面がかわいたら、たっぷりやって下さい。目安は、夏は1～2日に1回、春・秋は週2回、冬は週1回くらいです。

●補植・移植

植物は生きものだから、弱ったり、ときには枯れたり、逆に強いものが広がったりします。そのくりかえしと共に、ガーデンが成長していくと考えて下さい。シーズンごとには株分けしたり、新しい株を加えたりするのもガーデニングの楽しみです。

●健康チェック

時間があれば、できるだけ日々の観察がおすすめです。植物の育ちぶりが読み取れ、自然と「植物学」が身につきます。そして、土の乾き具合、花や葉の枯れ方、病虫害の兆候など、変化がキャッチできます。SOSを感じたら、その場でやれること、プロに相談することをお考え下さい。